

【例題】以下の条件に基づき、貸倒懸念債権の一連の仕訳を示しなさい。

1. 当社は保有する貸付金について、貸付先からの金利減免の要請に合意した。

当該債権は貸倒懸念債権として、キャッシュ・フロー見積法により貸倒引当金の設定を行う。

貸付金額：100,000円

当初利率：年2% 合意後利率：年1%（利払日：毎年3月31日）

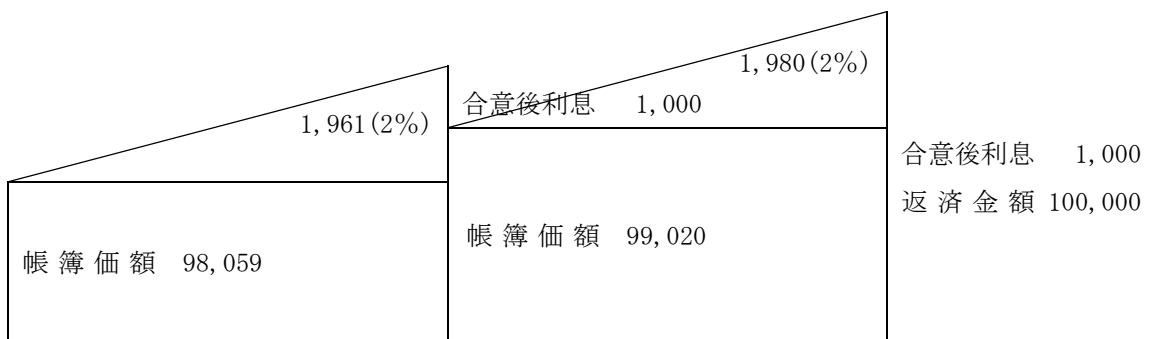
合意期日：X1年3月31日

返済期日：X3年3月31日

2. 当社の決算日は、毎期3月31日である。

3. 計算に当たり、小数点以下の数値は四捨五入を行う。

【図解】



※ 每期合意後（下落後）利息 $1,000 = B/S$ 貸付金 $100,000 \times 1\%$

※ X2年3月31日帳簿価額 $99,020 = (100,000 + 1,000) \div 102\%$

※ X3年3月31日受取利息 $1,980 = 99,020 \times 2\% = (100,000 + 1,000) - 99,020$

※ X1年3月31日帳簿価額 $98,059 = (99,020 + 1,000) \div 102\%$

※ X2年3月31日受取利息 $1,961 = 98,059 \times 2\% = (99,020 + 1,000) - 98,059$

※ X1年3月31日貸倒引当金 $1,941 = B/S$ 貸付金 $100,000 -$ 帳簿価額 $98,059$

【仕訳】

X1年3月31日：決算整理

貸倒引当金繰入 1,941 貸倒引当金 1,941

X2年3月31日：決算整理等（合意後利息の処理を含む）

現金預金 1,000 受取利息 1,961

貸倒引当金 961

X3年3月31日：決算整理等（合意後利息の処理を含む）

現金預金 1,000 受取利息 1,980

貸倒引当金 980

X3年3月31日：返済

現金預金 100,000 貸付金 100,000

【例題】以下の条件に基づき、貸倒懸念債権の一連の仕訳を示しなさい。

1. 当社は保有する貸付金について、貸付先からの金利減免の要請に合意した。

当該債権は貸倒懸念債権として、キャッシュ・フロー見積法により貸倒引当金の設定を行う。

貸付金額：100,000 円

当初利子率：年 2% 合意後利子率：年 1% (利払日：毎年 3 月 31 日)

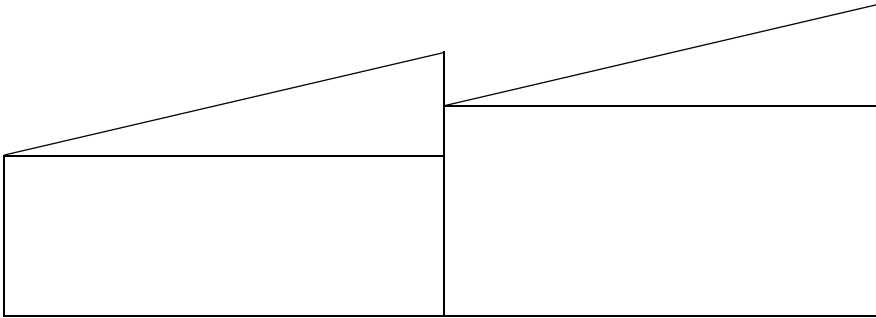
合意期日：X1 年 3 月 31 日

返済期日：X3 年 3 月 31 日

2. 当社の決算日は、每期 3 月 31 日である。

3. 計算に当たり、小数点以下の数値は四捨五入を行う。

【図解】



【仕訳】

X1 年 3 月 31 日：決算整理

X2 年 3 月 31 日：決算整理等(合意後利息の処理を含む)

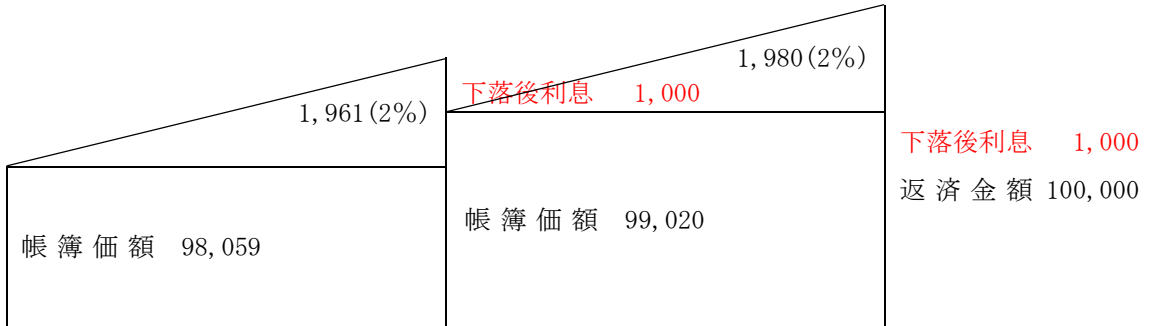
X3 年 3 月 31 日：決算整理等(合意後利息の処理を含む)

X3 年 3 月 31 日：返済

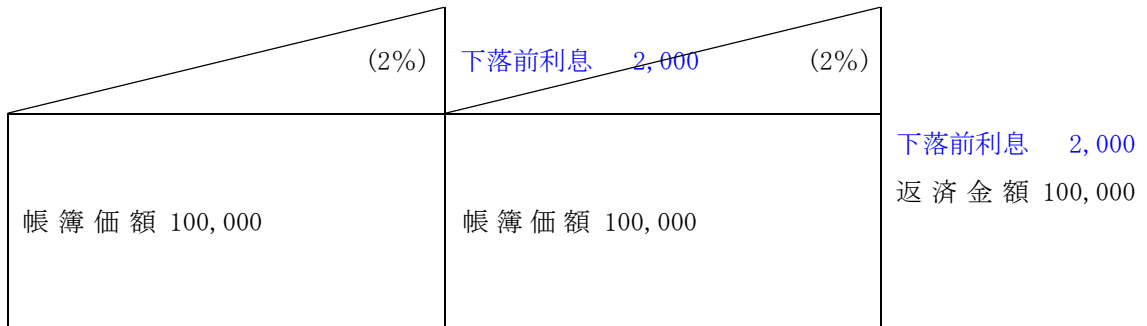
【原理】

利息受取額の下落による価値毀損額を測定する為、利息受取額以外の前提を全て同一とした上で利息受取額の下落がない正常な状態と比較を行うのが、キャッシュ・フロー見積法の趣旨である。

- ・利息受取額の下落が生じた異常なケース



- ・利息受取額の下落がない正常なケース



- ・価値毀損額

貸倒引当金 ▲1,941

貸倒引当金 ▲980

貸倒引当金 0